
忘れられたナニカ

竜辰龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忘れられたナニカ

【Nコード】

N5782L

【作者名】

竜辰龍

【あらすじ】

なにか忘れていませんか？

どうやら僕は何かを無くしてしまったようだ。

というのもここ数日の間、心にポカリと隙間があいたような、東に行くはずが西に向かっているような奇妙な感覚が付きまとうのだ。きっとそのナニカは僕にとって大したこともない、置き去りにされてこそ意味のあるものだったのだろう……あるいは逆に、ナニカを失うことでこれまでの人生が三百六十度＋α分ぐらいずれてしまふほど欠かせないものだったのかもしれない。

どちらにせよ、ナニカはもうない。

僕が忘れたせいで、過去のどこか見知った場所に置かれたままになっっている。

もしかしたら、通りすがりの人が拾って、僕の代わりに何かを大切に大切にしまってくれているのかもしれない。あるいは掃除中の奥さんがゴミ箱の中にでも捨ててしまったか……。

それにしても、面倒なことになってしまった。

ナニカは他の人に迷惑をかけていないだろうか。小さな子どもにいたずらをしていたら大変だ。

ただ幸運なことに、僕はナニカを『忘れた』とは覚えていた。

ナニカがない。

そのことは頭の隅に引っ掛かり、魚の小骨のようにむず痒い感覚が取れなくて、いらだって、ムシヤクシヤするけど。

忘れてはいけない。

ナニカはきっと戻ってこない、でも、万が一にも僕の手元に舞い戻ってきたときに僕がナニカの存在を忘れ去っていたのなら、きっとナニカは悲しむだろうから……。

このまま覚えていよう。

胸に深く空いた穴を抱えて、ただただ僕は歩く。

この先もたくさんの方を、落とし続ける。

（後書き）

まあひねりもなく、かといって特殊な味があるわけでもない短編です。

結局ナニカとは何なのか……ご想像におまかせします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5782/>

忘れられたナニカ

2010年10月16日05時19分発行